

2020 年度 学校評価(自己評価)

◆グローバル化の推進

日常的で多彩な国際交流活動(2019 年度長期・短期派遣 69 名, 2019 年度海外高校生長期・短期留学生受け入れ 198 名)の拡充や海外協定校・機関(2019 年度まで 9 カ国 12 校・機関)の新規開拓や交流を実施する予定であったが, COVID19 の影響により停滞を余儀なくされた。その一方で, ICT を活用してドイツ・フランス・ロシアとのオンライン交流を実施することができた。

◆知的挑戦心(探究心)の涵養・知的挑戦力(基礎力)の育成

STEM 国際共同研究(海外高校との理系分野の国際共同研究)の推進や, 首都圏オープン(首都圏高校生による理系研究発表・交流会)の開催を予定していたが COVID19 のため, 実施することができなかった。次年度以降, 知的挑戦心や知的挑戦力を高める授業・活動(フィールドスタディ型探究・英語アカデミックプレゼン・企業連携プロジェクト)を充実させる予定である。

◆高大接続施策の充実

COVID19下においても, 各学部を知る取り組み(「学部への招待」「学部ウィーク」等)の拡充や高大接続テストの実施, 学院生のキャリア形成をうながす取り組みができた。引き続き, 中高大接続を推進していきたい。

2020 年度 保護者・生徒を対象とした学校評価アンケートについて

今後の高等学院および高等学院中学部の教育をより良くするため、保護者・生徒を対象にしたアンケートを実施している。次に質問項目、アンケート結果の分析と改善点等を述べる。

【質問項目】

I 学校全体の取り組みについて

- I-1. 高等学院は生徒の自主性・自立性の育成に努めている
- I-2. 高等学院は中学・高校と大学との連携に努めている
- I-3. 高等学院は国際交流の推進に努めている

II 学習指導について

- II-1. 指導方法を工夫し、質の高い授業が行われている
- II-2. 生徒の進度やレベルに合った授業が行われている
- II-3. 生徒一人ひとりの学力を伸ばす授業が行われている
- II-4. 適切な評価が行われている

III 生徒指導について

- III-1. 組主任は生徒の欠席・欠課・遅刻の状況を把握し、生活面の指導を適切に行っている
- III-2. 組主任は生徒の成績を把握し、学習面のサポートを適切に行っている
- III-3. 組主任は進級・進学などのルールについて、保護者・生徒へ適切に説明を行っている
- III-4. 組主任は学部・学科などの情報を保護者・生徒に提供し、適切に進路指導を行っている
(生徒は高校のみ)

IV クラブ活動について

- IV-1. 生徒の安全面に配慮した適切な指導が行われている
- IV-2. 部長(顧問)は部員とコミュニケーションを取り、生徒の把握に努めている
- IV-3. 部長(顧問)は部活動の内容について、保護者へ適切に情報を提供している

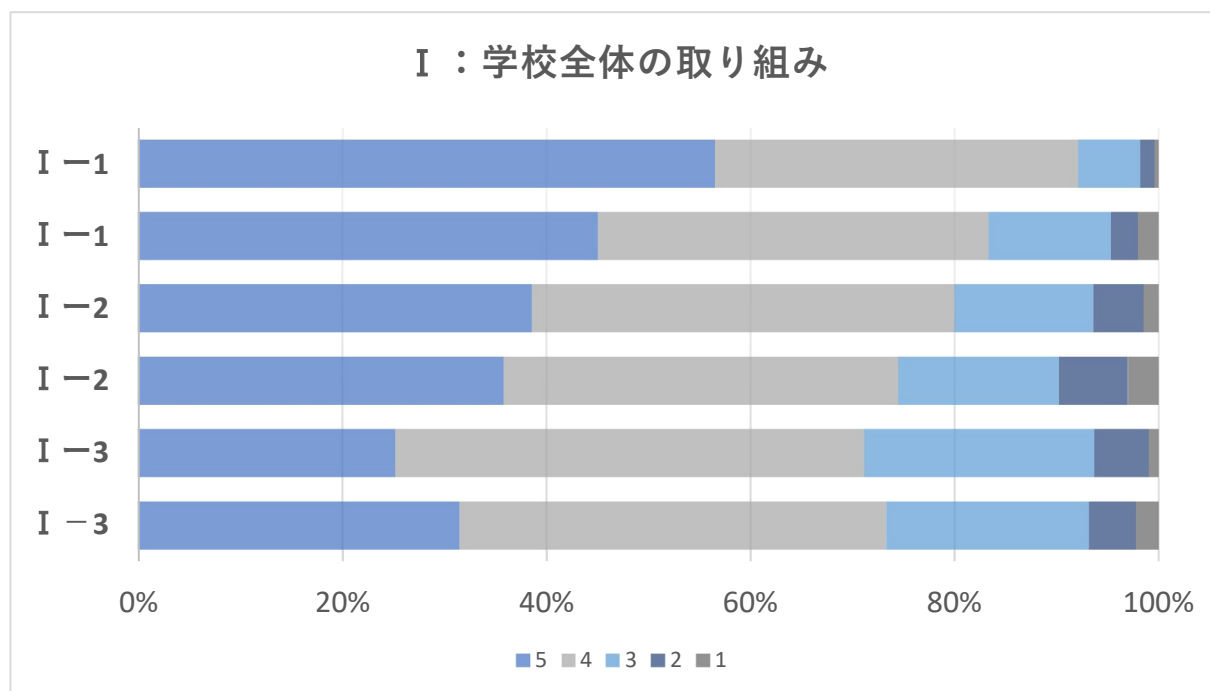
V 授業や勉強へのあなたの取り組みについて【生徒のみ】

- V-1. 私は授業に積極的に取り組んでいる
- V-2. 私は授業時間以外にも積極的に勉強をしている
- V-3. 私は授業時間以外にも積極的に取り組んでいるものがある

【アンケート結果の分析と改善点等】

I 学校全体の取り組みについて

(各項目 グラフ上段:保護者, 下段:中高学院生)



「そう思う」「ややそう思う」「どちらとも言えない」「あまりそう思わない」「そう思わない」

質問項目 I-1.「生徒の自主性・自立性の育成に努めている」

本項目については、肯定的な意見の比率は高く、本校の目指す教育理念が保護者・生徒とも共有され、中高生ともに自主性・自立性を持ち始めていると言える。

質問項目 I-2.「中学・高校と大学との連携の推進に努めている」

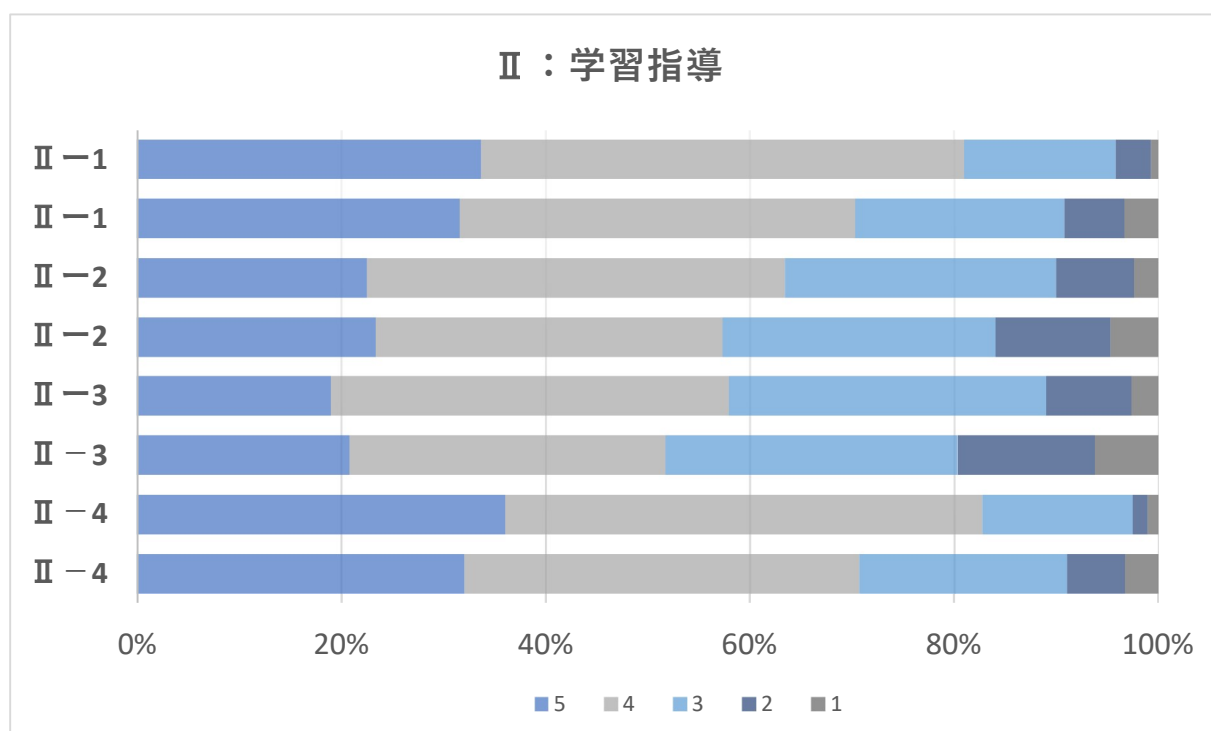
前項目と比較すると肯定的な意見の比率は下がるが、中高大連携の実践についての取り組みが生徒・保護者ともに理解され浸透していると言える。

質問項目 I-3.「国際交流の推進に努めている」

短期・長期海外留学に加え英語科・第二外国語科における国際交流そしてスーパーグローバルスクール(SGH)の経験などを踏まえた高等学院の国際交流推進は、保護者・生徒へ評価されているが、2020年度はCOVID19のため、肯定的な意見の比率やや低い結果となった。

Ⅱ 学習指導について

(各項目 グラフ上段:保護者, 下段:中高学院生)



「そう思う」「ややそう思う」「どちらとも言えない」「あまりそう思わない」「そう思わない」

質問項目Ⅱ-1.「指導方法を工夫し、質の高い授業が行われている」

保護者・生徒とも肯定的な意見は多いが、今後とも授業の質の向上に努めていく必要がある。

質問項目Ⅱ-2.「生徒の進度やレベルに合った授業が行われている」

質問項目Ⅱ-3.「生徒一人ひとりの学力を伸ばす授業が行われている」

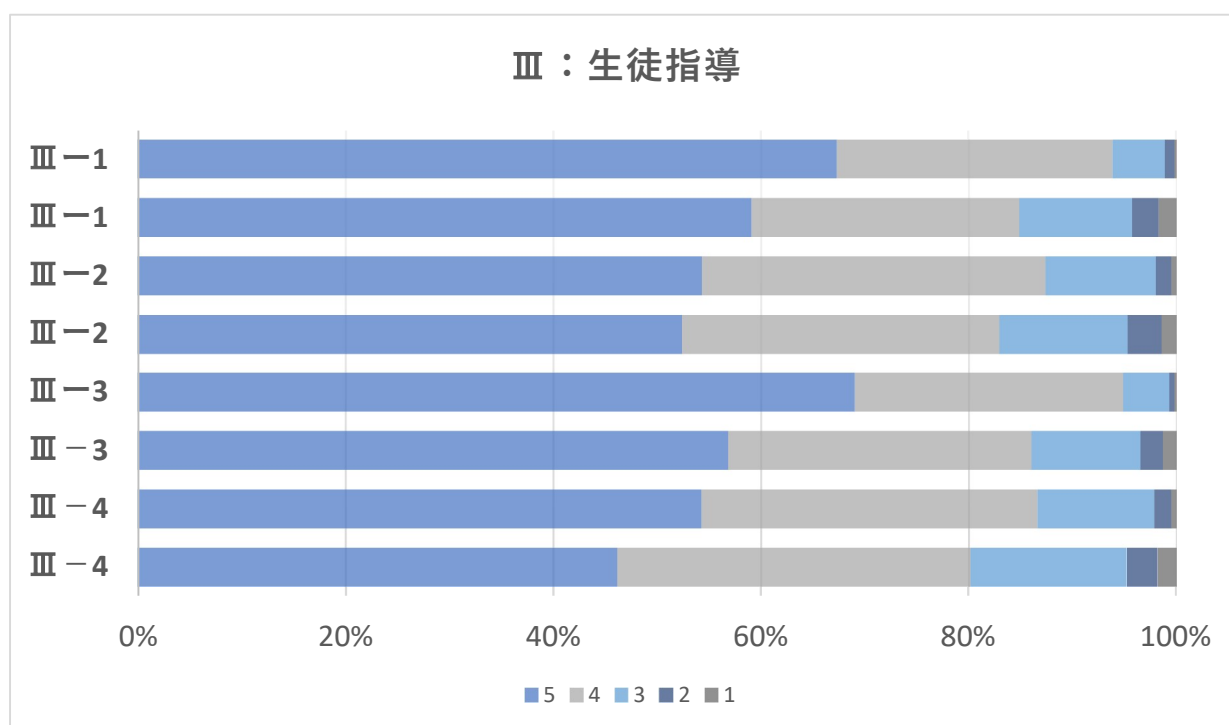
両項目についての評価は保護者・生徒とも「ややそう思う」が最も高く「そう思う」の比率がそれほど高くない。今後も引き続き、各教員による授業の質の向上のより一層の努力が必要である。

質問項目Ⅱ-4.「適切な評価が行われている」

生徒に対する学習評価の実施は非常に難しく、生徒・保護者とも「ややそう思う」が最も高くなっている。普段の授業における評価が進級・進学に影響するため、適切な評価を実現させるため、今後とも改善に努める必要がある。

Ⅲ 生徒指導について

(各項目 グラフ上段:保護者, 下段:中高学院生)



「そう思う」「ややそう思う」「どちらとも言えない」「あまりそう思わない」「そう思わない」

質問項目Ⅲ-1. 組主任は生徒の欠席・欠課・遅刻の状況を把握し、生活面の指導を適切に行っている

質問項目Ⅲ-2. 組主任は生徒の成績を把握し、学習面のサポートを適切に行っている

質問項目Ⅲ-3. 組主任は進級・進学などのルールについて、保護者・生徒へ適切に説明を行っている

質問項目Ⅲ-4. 組主任は学部・学科などの情報を保護者・生徒に提供し、適切に進路指導を行っている

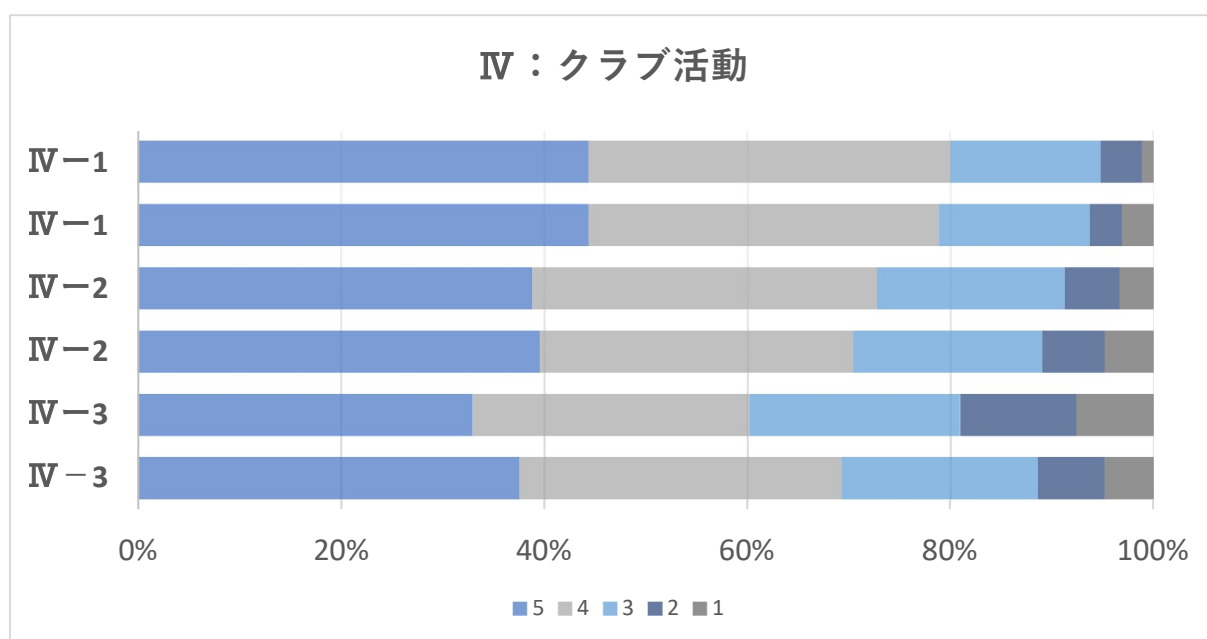
(生徒は高校のみ)

全項目において「そう思う」が最も多い回答になっており、これまでと同様に、保護者・生徒ともに高評価が得られている。組主任と生徒・保護者との信頼関係が良好の状態を保たれており、生徒に対する生活面・学習面でのサポート態勢が適切に組み立てられていることがこの結果からわかる。

Ⅲ-4の進学指導については、COVID19のため例年行っている学部説明会やモデル講義、本校OBである学部生・大学院生と本校生徒との懇談会などが十分に実施できなかった。附属学校として、生徒たちへ早い段階から学部・学科進学の意識づけを行い、自身の進路について考えさせる教育を行っていく必要がある。

IV クラブ活動について

(各項目 グラフ上段:保護者, 下段:中高学院生)



「そう思う」「ややそう思う」「どちらとも言えない」「あまりそう思わない」「そう思わない」

質問項目IV-1.「生徒の安全面に配慮した適切な指導が行われている」

保護者全体・生徒全体ともに「そう思う」「ややそう思う」で 8 割をしめる。常に生徒の安全確保に留意する必要がある。

質問項目IV-2.「部長(顧問)は部員とコミュニケーションを取り, 生徒の把握に努めている」

保護者・生徒ともに, 肯定的な意見の比率が高く, 今後とも部長(顧問)と生徒との間のコミュニケーションの重要性をしっかりと認識する必要がある。

質問項目IV-3.「部長(顧問)は部活動の内容について, 生徒へ適切に情報を提供している」

保護者・生徒ともに, 肯定的な意見の比率が高いが, 保護者の肯定的な意見の比率が 30%台である。今後ともより一層, 部長(顧問)と生徒・保護者との連携を密にする努力を続けていくことが重要となる。

以 上